

泉の森 なんでも情報館

2014年 冬号(No. 12)
発行 しらかしのいえボランティア協議会
エリアマップ作成班

三周年記念

- * これまでのバックナンバーはしらかしのいえ事務所にあります。散策のおともにどうぞ！
- * カラー版は、しらかしのいえホームページの”ボランティア情報”→”エリアマップ作成班”から見るすることができます。

2011年1月になんでも情報館第1号を発行してから、まる3年経ちました。この間、下図の通り、泉の森のあちこちに焦点を当てて、自然・歴史・生物等の面白いことを紹介してきました。いよいよ4年目に突入、どんなものが飛び出すか、お楽しみに！！！！

No.7(2012/10) キャンプ場、クヌギの森周辺

No.4(2011/12), No.11(2013/10)

郷土民家園

No.6(2012/6)

国道246号の北側

No.1(2011/1), No.9(2013/4)'

しらかしのいえ周辺

No.5(2012/3), No.10(2013/7)

ふれあいの森周辺

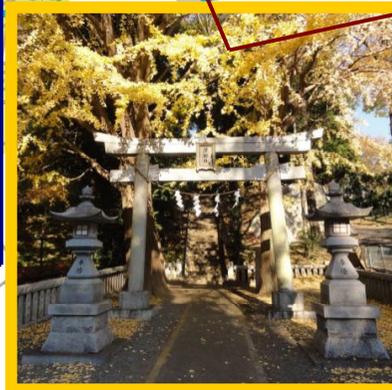
No.8(2012/12) しらかしの池周辺

No.3(2011/8) 水車小屋周辺と湿生植物園

引地川をカヌーで下って
相模湾に達しました(p.2)



熊野神社で初詣(p.3)
サンシュユ(p.3), 千両・万両等(p.5,6)の紹介もあります。



冬は鳥の種類も数もいちばん多い季節。鳥を探して泉の森を歩いてみましょう(赤い点線はコースの一例)。さて、何種類の鳥に会えるでしょうか?(p.4)



さあ、出かけよう！ 新春を迎えた泉の森へ！

泉の森から引地川を下る (その2)

前回、なんでも情報館 No.10 で、源流から河口まで引地川の川べりを自転車で回り、またふれあい広場から千本桜までカヌーで下ったことを紹介しました。今回は、引き続き、千本桜から河口まで、2回にわたってカヌーで漕ぎ下った様子を紹介します。初回は一人で下りましたが、2回目からは泉の森ボランティア仲間の 塚智男さん(私と同じ西鶴間在住)と一緒に。私のかみさん、千代ちゃんが車で伴走してくれました。

1. コース紹介: 引地川の”断面”

No.10に引地川の概略地図を載せていますが、今回は、源流から河口までの標高断面図(下の図: カシミール 3D にて作成)をもとにコースを紹介します。

初回出発地点のふれあいの森は、源流の大池やしらかしの池と同様、標高50m弱。参考までに断面図左端に西鶴間6丁目の標高を入れましたが、そこは標高70m。引地川源流部は、周りから20mも窪んでいて、昔は林や農地ばかりだったところから水を集めて湧き出していたことが、なんとなくわかるような気がします。

さて、初回は半分くらいカヌーを引っ張って歩きましたが、2回目は3割方歩き、3回目は、ほとんど歩かずに漕ぎ下ることができました。水面に浮かぶのは気持ち



千本桜 福田小下の親水護岸から2回目スタート(9/19)

がいいもので、時々、通りすがりの方々が手を振ってくれます。水は、大体綺麗です。下流になるほど透明度は落ちてきますが、ヘド臭いようないやな臭いはありません。引地川を綺麗にする活動を続けてきたボランティア団体や、下水道・治水整備に携わる行政の皆さんに感謝したくなりますね。

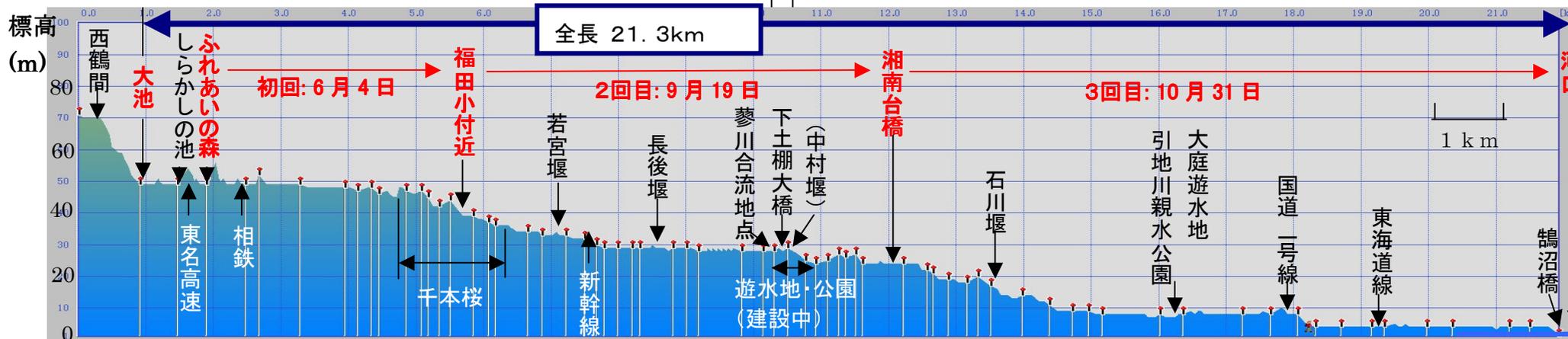
2. 川のかたち

川を下っていて目立つのは、落差工や堰です。千本桜付近に2つ、段差1mくらいの落差工がありますが、これは川の流れの勾配をゆるくするためのものだそうです。

その下流に農業用水を取水するための堰として、大和市に若宮堰、藤沢市に長後堰・石川堰があります。後日、藤沢土木事務所河川砂防第一課に伺い、いろいろ教わったのですが、今回は長後堰(右の写真)について触れます。



以前は川底からゲートが起伏して水を止め、取水する方式でしたが(旧長後堰)、ゲートは外されて新たにゴム堰(ゴム布引製のチューブを膨らませて水を貯める)方式の新長後堰が2年前にできたそうです。ゴム堰の横には魚道も作られており、石川堰の魚道も含めて、魚さんたちは、ここまでは容易に来れることになるのです。そしてまだ残っているのが、旧長後堰の1.5m程の段差・・・大和市内の引地川で、以前、鮎が見つけれられたそうですが(No.5 参照)、ひょっとしてその鮎は、この段差を飛び越えたのかもしれませんが。若宮堰・石川堰も面白い構造になっていますが、紙面の関係で書き切れません。各所にある遊水地・公園の話とともに、後日、紹介することにしましょう。(伊藤 健一)



熊野神社の初詣

ふれあいの森の東側に、銀杏の巨木が長い階段の前に大きく枝を広げる神社がある。熊野神社である。須佐之男命（すさのおのみこと）を主神に4柱の神を祀っている。現在は上草柳の鎮守であるが江戸時代は上草柳村と下草柳村の総鎮守であった。創建年代は明らかではない。しかし、元禄7年（1694）の社殿再建時の棟札が残されているので、少なくとも300年以上前の創建であることは確かである。現在の社殿は昭和53年（1978）に氏子の献金を基に再建された。

神社は大晦日から元旦、三が日は初詣客で賑わう。特に大晦日の除夜の鐘、年が改まる零時頃から2時は初詣の人出が多いという。最近は遠くの有名神社で人混みにまみれるより、近くの地域の神社でゆったりとお正月を楽しみたい人が増えたのか熊野神社も初詣客が多いそうだ。

大晦日は、社殿の前の階段には両脇にかがり火が焚かれ、境内の中央では暖をとることができる大きなたき火が焚かれる。お参りを済ました人にはお神酒が振舞われる。以前は甘酒も振舞われたが、飲酒運転防止のため甘酒の無料提供はなくなり有料になった。元旦には初詣客が列をなす中で、獅子舞やおかめ、ひょっとこが出てきて正月気分を盛り上げる。獅子に頭を噛まれると丈夫に育つと言われて、小さな子供が獅子に頭を噛んでもらったりする。時々、その子供が泣き出したりするのは微笑ましいものである。

こういう獅子舞やおかめ・ひょっとこの踊り、お神酒の振舞い、あるいはお札の配布などの仕事は、氏子総代など神社を支える地域の人たちによって昔から連続として行われてきた。獅子舞等は9月の例大祭でも演じられるが、そのお囃子は「上草柳はやし連」の人たちが、日頃から週に1回は練習に励んだ技を披露しているのである。神社はこういう地域の人たちの熱意で支えられている。そういう意味でも、まさに熊野神社は「おらが村の鎮守様」なのである。

（橋本幸夫）

熊野神社については氏子総代を務めた下田等様から貴重なお話を伺いました。ありがとうございます。

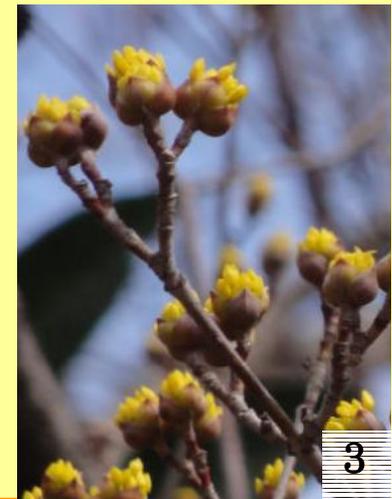


熊野神社の社殿

サンシュユ

しらかしの池のまわりで、春、一番に花をつけるのが、サンシュユです。2月中旬につぼみをつけ、3月には黄色い小さな花を房状に枝一杯につけます。まだ、まわりの木々は葉を落としたままのときに、花をつけたサンシュユは春の訪れを告げてくれているようです。

秋には、グミのような長円形の赤い実がつけます。実には、滋養強壯の薬効があるとされ、漢方薬にも使われます。名前の由来は、漢名「山茱萸」の音読みです。「茱萸」はグミのことです。早春の、木一杯の花のようすから「ハルコガネバナ」秋の実のなっているようすから「アキサンゴ」ともいわれます。（伊藤眞佐子）



泉の森の冬さんぽ…鳥を探して

では「しらかしのいえ」から出発です。「自然観察園」から「チャッチャツ」という声。寒くなって、山から下りてきたウグイスが、草むらの陰で何か餌を探しているのでしょう。姿をなかなか見つけられません。「しらかしの池」にカモたちに会いに行きましょう。「ふれあいステージ」に行くと、おでこから頭にかけて黄色が目立つヒドリガモ、体は黒く目は金色のキンクロハジロたちが寄ってきました。その中の1羽、頭がチョコレート色の雄のホシハジロはアシの茎の陰に戻って行きました。アシの陰からオオバンが2羽出てきて、群の間を横切り「観察デッキ」の方へ、その先にはカイツブリも2羽、時々潜って餌探しです。ステージの上からカイツブリの潜って泳ぐ姿がよく見えます。手前の杭の上にはアオサギが、奥の杭の上にはコガモが乗っていました。しらかし林からはヒヨドリのにぎやかな声。池周りの桜の木では5～6羽のシジュウカラが枝移りをしながら、餌を探しています。

「しらかしの池」を周り、池東側の林に入ると、コゲラの声が聞こえ、シジュウカラ 10羽くらい、エナガ 20羽ほどにメジロ 6羽も混ざる大きな群に出会います。頭上をあっちにこっちにと動き回っています。冬になると見られる混群ですが、なかなか会えませんね「湿生植物園」ではカルガモが6羽食事中でした。「緑のかけ橋」をくぐり「水車小屋」へ。赤い実をつけたイギリの大木には、たくさんの鳥たちが来てこの実を食べています。ヒヨドリやツグミも交じっていることでしょう。ゆっくりと探してみましょう。コサギが「水源地」の方から飛んできて「湿生植物園」に降りてきました。「mamushi池」の方からジョウビタキの声がします。枝先に止まっていました。

国道 246 号をくぐり、「ひなた山」へ。コツコツと木をつつく音がします。高い枝先でコゲラが虫を探するか、木くずがハラハラと落ちてきます。その周りにはシジュウカラの姿もありました。「あじさいの道」ではアオゲラの甲高い声。大きな木のまん中辺を上に登って行き、向こう側に回り込んでしまいました。「森の原っぱ」ではウグイスによく似た声がします。アオジです。この2種を聞き分けられるようになると楽しみが倍増します。「山野草の小径」に入ると藪の中にウグイスが、林の中にカケスがいるようです。ほんとうに姿を見せてはくれません。落ち葉をひっくり返すカサカサという音をたよりに、双眼鏡の焦点を合わせるとシロハラがいました。こっちに気が付くとあつという間に姿を隠してしまいます。そっと観てみましょう。少し歩くと「水源地」が見えてきます。池の縁でアオサギを見つけました。珍しいですね。「野鳥観察デッキ」からは水源地の「大池」にマガモ3羽がいるのが見えました。以前にはオシドリを観察したこともあります。また来てくれると良いですね。駐輪場まで坂を下って左へ曲り、キジバト 10羽が地面で餌を探しているのを確認して、水車小屋の裏の広場で、またコゲラを見つけました。2羽が木から木へと移動していきました。「しらかしのいえ」を回って正面の門に到着。今日の鳥探りは終わりです。（藤井和子）



アオサギ 写真:西川勇氏(東京都)



どアップのヒヨドリ 写真:西川勇氏(東京都)



いいもの見つけた！ ジョウビタキ
写真:新井洸三氏(川崎市)

次号は4月頃発行の予定です。
どうぞ楽しみに！

ヤブタチバナリ万両 ヤブツクリ科
前名をアカギ(アハセ)



最も見られる

実は無味で青臭い。ハセチ年からマレリヨウと呼ばれる。

六

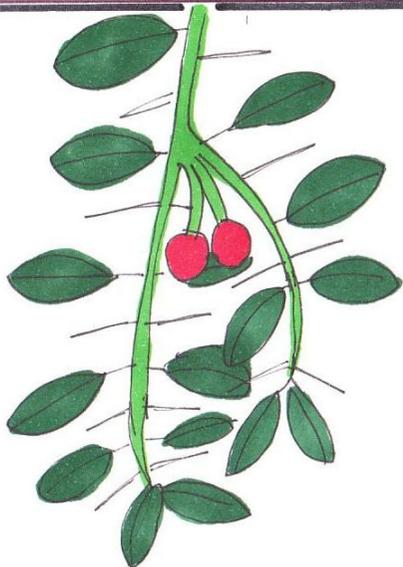
カラタチバナリ百両 ヤブツクリ科



中国では「百両金」ときめれる。ごく低木。

ハ

アリオオラリ一両 アリオオラ科



主に関西のちの正月飾り。万両・千両有り通しときめれる。十

クササーゴリ千両 セリヨウ科

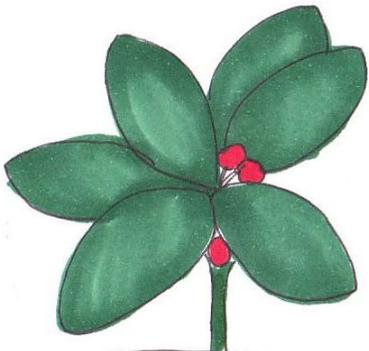


赤い実をつけた。常緑樹よ

花・実が上向きにつくのがマレリヨウとの違い。

七

ヤブコウゾリ十両 ヤブツクリ科
別名 ヤマタチバナ



必ずしもヤブコウゾリの仲間ではないとは判るかの

茎と葉にベルガリシという物質を含有。利尿・咳止めに使った。

九

二〇二四年度もなんでも情報館と泉の赤松を



ヤマトン...でなくややヤマトン

よろしくお願い致します

完